

内容梗概

目次

1	はじめに	1
2	コードリーディング支援システムに関する研究	2
2.1	関連研究	2
2.2	設計指針	2
2.3	提案システム	2
2.4	ケーススタディ	2
2.5	課題と考察	2
3	競技性・観戦性を拡張したプログラミングゲームの開発	3
3.1	関連研究	3
3.2	設計指針	3
3.3	提案システム	3
3.4	評価実験	3
3.5	課題と考察	3
4	まとめ	4
	謝辞	5
	参考文献	6

1 はじめに

昨今、自然言語での読み書きや健康のために行う運動のようにプログラミングを一般教養にしようとする動きがある。小学校におけるプログラミング教育の必修化がその最たる例で、将来プログラミングに関わる職業につかない人でもプログラミングに関する知識やその考え方をある程度身につける方が望ましいと考えられている。

しかし最初から理解が容易で楽しさを感じやすい読み書きや運動とは異なり、プログラミングは楽しさを感じるまでにある程度の習熟を要する。よく書かれた小説などの文章やプロスポーツでのファインプレーには初心者でも心動かされるもので、そうした小説家やスポーツ選手への憧れが自ら書くことや体を動かすへの感心を高めるが、プログラミングの場合にはそのような憧れを持つ機会に乏しいのが現状である。プログラミング初学者にプログラミングの楽しさを実感させるために設計された学習コンテンツは多数存在するが、その多くは小・中学生など若い年代をターゲットに設計されているため、高校生や大学生などには向かない。

本研究ではプログラミング初学者のプログラミングに対する興味関心を高めるため、ゲーミフィケーションやゲームといったエンタテインメントの要素を組み込んだコンテンツを開発し、初学者を対象に運用を行うことでその効果を検証した。

本論文では以降、2章でゲーミフィケーションを用いたコードリーディング支援システムについて述べ、3章でプログラミング初学者の興味喚起を目的としたプログラミングゲームについて述べる。4章で本論文をまとめる。

2 コードリーディング支援システムに関する研究

2.1 関連研究

2.2 設計指針

2.3 提案システム

2.4 ケーススタディ

2.5 課題と考察

3 競技性・観戦性を拡張したプログラミングゲームの開発

3.1 関連研究

3.2 設計指針

- ユーザがシステムの利便性を感じる
- ユーザの任意のタイミングで情報を取得できる
- ユーザの読書を妨害しない

3.3 提案システム

3.4 評価実験

3.5 課題と考察

4 まとめ

謝辞

本研究を行うにあたり，日頃より御指導，御激励を賜り，数々の御教示を頂きました西田健志准教授に深甚なる謝恩の意を表します。また神戸大学大学院国際文化学研究科に在学中，御教示，御激励頂いた神戸大学大学院国際文化学研究科の諸先生方に感謝すると共に，諸職員の方々に感謝いたします。日頃より数々の御助言を下さいました諸先輩方，快適な環境を作って頂いた研究室の皆様方，実験に協力頂いた実験参加者の方々に深く感謝いたします。特に研究活動に対する多くのアドバイスとサポートを頂いた工学研究科の清水友順氏，国際文化学研究科の三嶋哲也氏に深く感謝いたします。

参考文献

- [1] 高野健太郎, 大村賢悟, 柴田博仁: “短編小説の読みにおける紙の書籍と電子書籍端末の比較,” 情報処理学会第 141 回 HCI 研究会, Vol. 141, No. 4, pp.1–8 (Jan. 2011).
- [2] 柴田博仁, 大村賢悟: “答えを探す読みにおける紙の書籍と電子書籍端末の比較,” 情報処理学会第 141 回 HCI 研究会, Vol. 141, No. 5, pp. 1–8 (Jan. 2011).
- [3] P. Delgado, C. Vargas, R. Ackerman, and L. Salmerón: “Don’t Throw Away Your Printed Books: A Meta-analysis on the Effects of Reading Media on Reading Comprehension,” *Journal of Educational Research Review*, Vol. 25, pp. 23–38 (Nov. 2018).
- [4] 稲川暢浩, 藤波香織: “読書体験を豊かにするための本の拡張に関する研究,” 情報処理学会第 70 回全国大会, pp. 131–132 (Mar. 2008).
- [5] 稲川暢浩, 藤波香織: “読書中に低い妨害感で効果的に付加情報を伝達するための情報提示方法,” 情報処理学会第 135 回 HCI 研究会, Vol. 2009, No. 12, pp. 1–8 (Dec. 2009).
- [6] 橋本直己, 櫻井淳一: “インタラクティブなプロジェクションマッピングの実現,” 映像情報メディア学会誌, Vol. 67, No. 2, pp. 60–63 (Jan. 2013).
- [7] 磯垣広野, K. S. Kyung, 澤野知佳, 福井 悠, 小林孝浩, 鈴木宣也, 関口敦仁: “可動鏡を使ったマルチプロジェクションシステム -Ptolemy-,” 情報処理学会シンポジウム論文集, Vol. 2007, No. 4, pp. 85–86 (Mar. 2008).
- [8] 土井麻由佳, 宮下芳明: “プロジェクションマッピングによる箏への演奏提示,” 第 23 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ論文集 (WISS 2015), pp. 181–182 (Feb. 2015).
- [9] S. Gupta and C. Jaynes: “The Universal Media Book: Tracking and Augmenting Moving Surfaces with Projected Information,” *Proc. of the ACM International Symposium on Mixed and Augmented Reality (ISMAR 2006)*, pp. 177–180 (Oct. 2006).
- [10] 鈴木若菜, 竹田一貴, 外山託海, 黄瀬浩一: “プロジェクタを用いた情報投影による印刷文書へのインタラクティブ性の付加,” 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 111, No. 317, pp. 69–74 (Nov. 2011).

- [11] 太田脩平, 寺田 努, 塚本昌彦: “装着型プロジェクタと可動鏡による周辺状況を考慮した映像投影手法,” エンタテインメントコンピューティングシンポジウム (EC 2012) 論文集, Vol. 2012, No. 1, pp.1–7 (Mar. 2012).
- [12] P. Mistry, P. Maes, and L. Chang: “WUW - Wear Ur World - A Wearable Gestural Interface,” *Proc. of the ACM International Conference on Human Factors in Computing Systems Extended Abstracts (CHI EA 2010)*, pp. 4111–4116 (Apr. 2009).
- [13] C. Harrison, H. Benko, and A. D. Wilson: “OmniTouch: Wearable Multitouch Interaction Everywhere,” *Proc. of the ACM symposium on User interface software and technology (UIST '11)*, pp. 441–450 (Oct. 2011).
- [14] C. Winkler, M. Broscheit, and E. Rukzio: “NaviBeam: Indoor Assistance and Navigation for Shopping Malls through Projector Phones,” *Proc. of the ACM Conference on Human Factors in Computing Systems (CHI 2011)*, (Jan. 2011).
- [15] 狩塚俊和, 佐藤宏介: “プロジェクタ投影型ウェアラブル複合現実感システム, 情報処理学会研究報告コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM), Vol. 104, pp. 141–146 (Sep. 2003).
- [16] LeapMotion, <https://www.leapmotion.com/ja/>.
- [17] OpenCV, <https://opencv.org/>.
- [18] Google Cloud Vision API, <https://cloud.google.com/vision/>.
- [19] Wikipedia, <https://ja.wikipedia.org/wiki/>.
- [20] MeCab: MeCab: Yet Another Part-of-Speech and Morphological Analyzer, <http://taku910.github.io/mecab/>.
- [21] 森見登美彦: 夜は短し歩けよ乙女, 角川書店 (2006).